

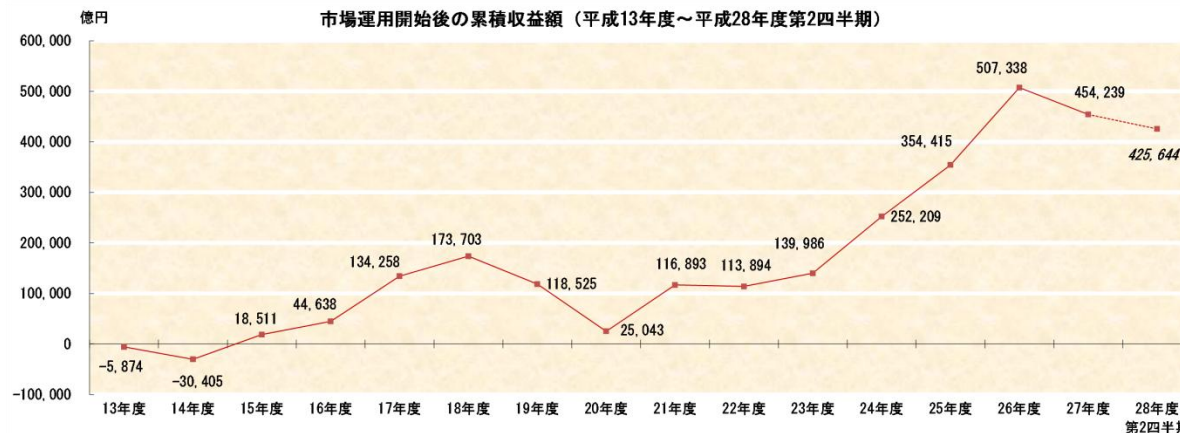
平成28年度第2四半期運用状況

年金積立金管理運用独立行政法人

年金積立金は長期的な運用を行うものであり、その運用状況も長期的に判断することが必要ですが、国民の皆様に対して適時適切な情報提供を行う観点から、作成・公表が義務付けられている事業年度ごとの業務概況書のほか、四半期ごとに運用状況の公表を行うものです。

収益は、各期末時点での時価に基づく評価であるため、評価損益を含んでおり、市場の動向によって変動するものであることに留意が必要です。なお、平成28年度第2四半期の利子・配当収入は、5,102億円でした。

	平成28年度第2四半期	市場運用開始以降 (平成13年度～平成28年度第2四半期)
収益率	1.84%(期間収益率)	2.47%(年率)
収益額	2兆3,746億円(期間収益額)	42兆5,644億円(累積収益額)
運用資産額	132兆751億円(平成28年度第2四半期末現在)	



- (注1) 当法人が管理・運用している資産は、市場運用を行っている資産(以下「市場運用分」という。)と満期保有としている財投債になります。市場運用分は時価評価、財投債は償却原価法による評価により管理・運用を行っています。
- (注2) 収益率は、市場運用分と財投債の投下元本平均残高等で加重平均により算出しています。
- (注3) 期間収益率及び期間収益額は、前期末から比較したものです。(以下のページにおいても同様です。)
- (注4) 市場運用開始以降の収益率(年率)は、前年度までの各年度の収益率及び今年度の今四半期までの収益率を用いて幾何平均により算出しています。なお、当法人設立(平成18年度)からの収益率(年率)は、2.34%です。
- (注5) 累積収益額は、前年度までの各年度の収益額に、今年度の今四半期までの収益額を加えたものです。なお、当法人設立(平成18年度)からの累積収益額は、29兆1,386億円です。

1. 平成28年度第2四半期運用環境

【各市場の動き（7月～9月）】

国内債券：7月の日銀金融政策決定会合でマイナス金利の拡大が見送られたことから、10年国債利回りは-0.01%程度に上昇（債券価格は下落）して推移しました。また、期末に近い9月の金融政策決定会合で日銀が「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を導入したことから、10年国債利回りはゼロ%をやや下回る水準で推移しました。期を通しては10年国債利回りは上昇（債券価格は下落）しました。

国内株式：政府の補正予算による景気対策への期待等から、期を通しては国内株式市場は上昇基調となりました。期末にかけては、FRB（米連邦準備理事会）による利上げの不透明感や欧州の金融不安などを受け、上値を抑えられました。

外国債券：米国10年国債利回りは、景気の腰折れ懸念が後退する一方、利上げに対する不透明感もあり緩やかに上昇（債券価格は下落）しました。一方、ドイツ10年国債利回りは、主要国の長期金利の反発に伴い、上昇（債券価格は下落）しましたが、期末にかけて欧州の銀行の経営不安等から低下（債券価格は上昇）しました。為替は円高基調で推移し、マイナス寄与となりました。

外国株式：米国株式は、景気の腰折れ懸念や英国EU離脱に対する過度な懸念が後退したことから反発して始まりましたが、8月以降は利上げの不透明感や割高なバリュエーションが嫌気され、上値の重い展開となりました。ドイツ株式は、英国EU離脱に対する過度な懸念が後退したことから反発しましたが、期末にかけて欧州の銀行の経営不安等からもみ合いました。外国株式全体としては期を通して上昇基調となりました。為替は円高基調で推移し、マイナス寄与となりました。

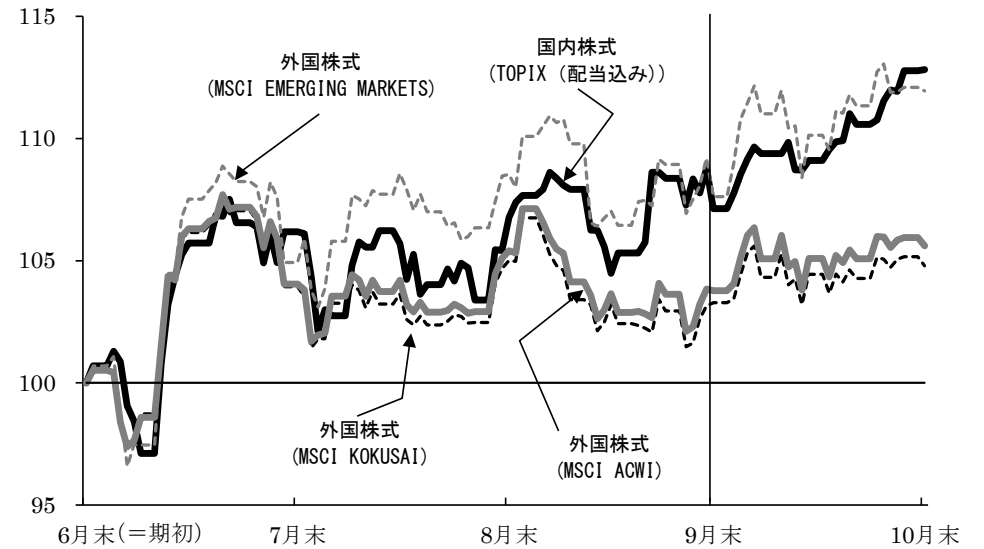
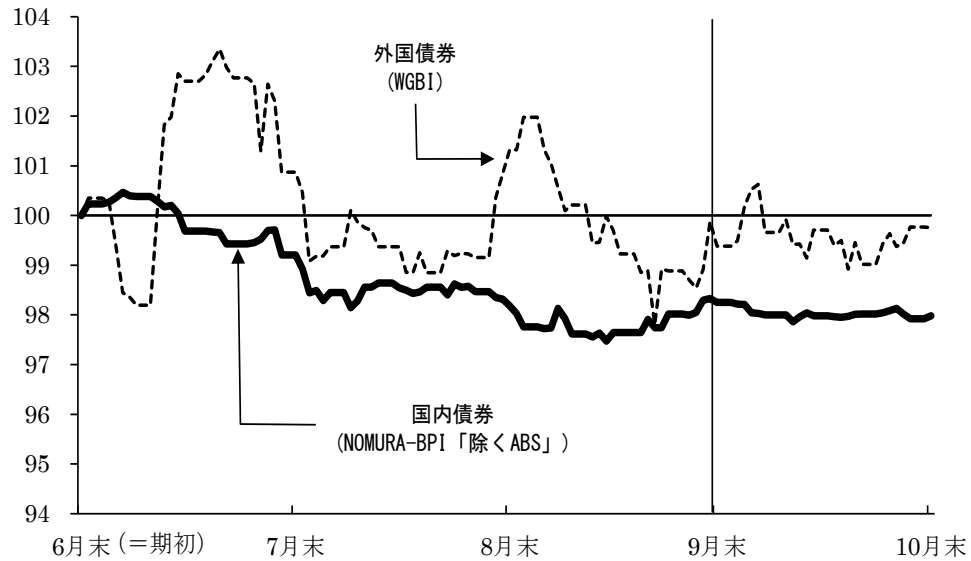
○参考指標

		H28年3月末	H28年6月末	H28年7月末	H28年8月末	H28年9月末	H28年10月末
国内債券	10年国債利回り (%)	-0.04	-0.23	-0.17	-0.06	-0.08	-0.05
	TOPIX配当なし (ポイント)	1347.20	1245.82	1322.74	1329.54	1322.78	1393.02
国内株式	日経225 (円)	16758.67	15575.92	16569.27	16887.40	16449.84	17425.02
	米国10年国債利回り (%)	1.77	1.47	1.45	1.58	1.60	1.83
外国債券	ドイツ10年国債利回り (%)	0.16	-0.13	-0.12	-0.06	-0.12	0.16
	NYダウ (ドル)	17685.09	17929.99	18432.24	18400.88	18308.15	18142.42
外国株式	ドイツDAX (ポイント)	9965.51	9680.09	10337.50	10592.69	10511.02	10665.01
	上海総合指数 (ポイント)	3003.92	2929.61	2979.34	3085.49	3004.70	3100.49
	ドル/円 (円)	112.40	102.59	102.49	103.44	101.27	105.09
為替	ユーロ/円 (円)	128.08	113.97	114.60	115.20	113.80	115.19

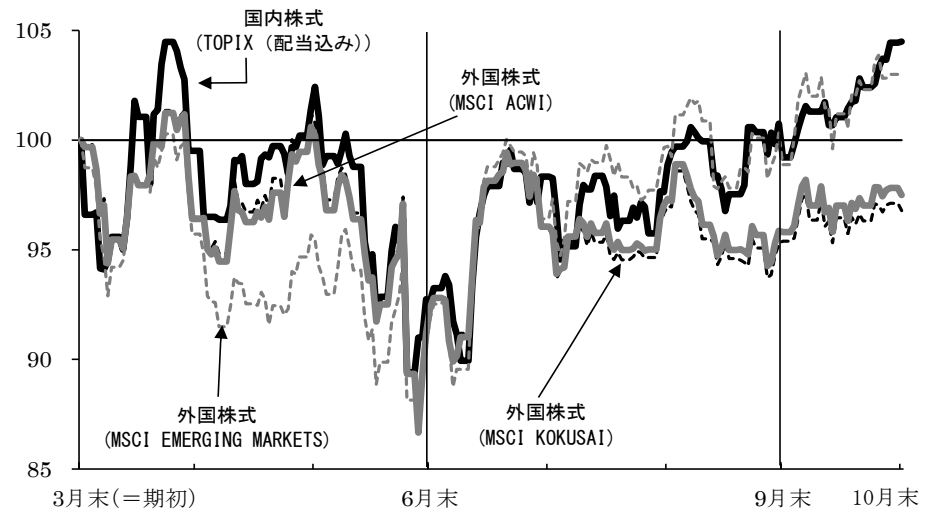
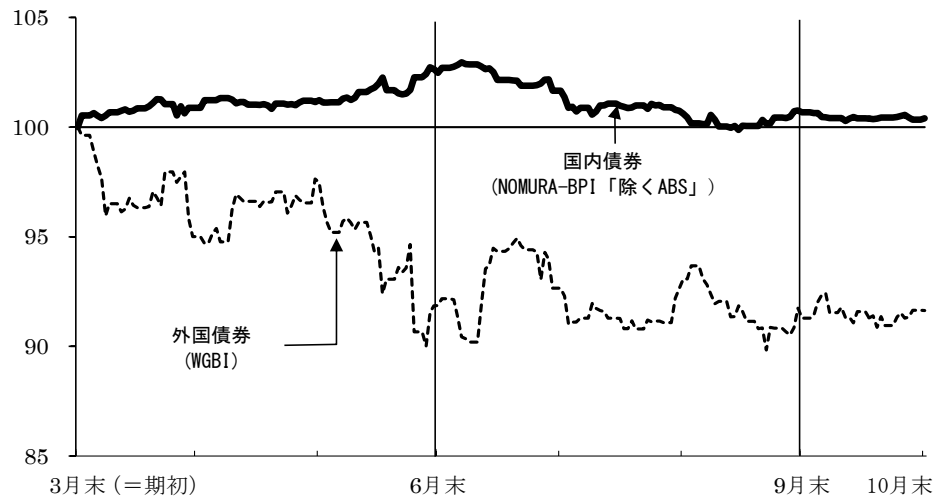
○ベンチマーク収益率

	平成28年7月～9月	平成28年4月～9月	平成28年4月～10月
国内債券			
複合ベンチマーク収益率	-1.34%	0.50%	0.29%
NOMURA-BPI「除くABS」	-1.75%	0.68%	0.40%
国内株式			
TOPIX配当込み	7.13%	-0.79%	4.48%
外国債券			
シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）	-0.62%	-8.71%	-8.36%
〈参考〉シティ世界国債インデックス（現地通貨ベース）	0.40%	2.96%	1.16%
外国株式			
複合ベンチマーク収益率（円ベース）	3.72%	-4.24%	-2.58%
MSCI ACWI（除く日本、円ベース）	3.77%	-4.20%	-2.50%
MSCI KOKUSAI（円ベース）	3.28%	-4.61%	-3.22%
MSCI EMERGING MARKETS（円ベース）	7.62%	-1.12%	2.85%
〈参考〉複合ベンチマーク収益率（現地通貨ベース）	4.96%	7.23%	6.15%

市場インデックスの推移（平成28年度 第2四半期）

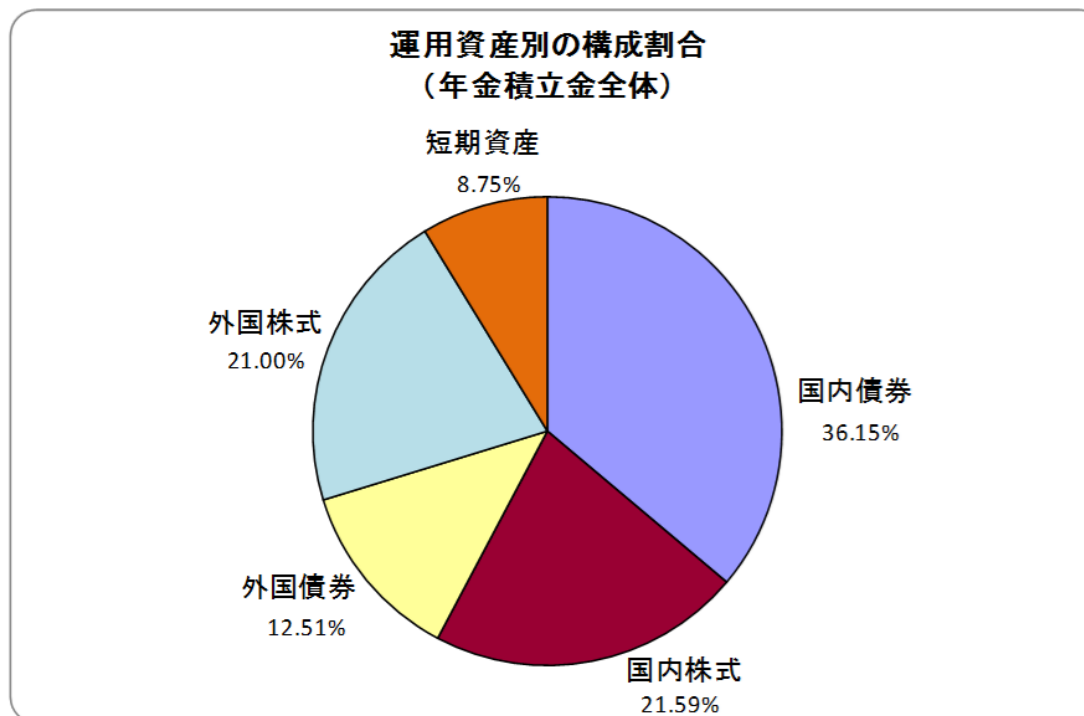


市場インデックスの推移（平成28年度 第1～2四半期）



2. 運用資産別の構成割合（年金積立金全体）

	第2四半期末 (平成28年9月末) (年金積立金全体)
	構成割合
国内債券	36.15%
国内株式	21.59%
外国債券	12.51%
外国株式	21.00%
短期資産	8.75%
合計	100.00%



(注1) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

(注2) 年金積立金全体とは、年金特別会計で管理する積立金を含みます。なお、基本ポートフォリオは、年金特別会計で管理する積立金を含めた年金積立金全体に対し、国内債券 35% (±10%)、国内株式 25% (±9%)、外国債券 15% (±4%)、外国株式 25% (±8%) です。

(注3) オルタナティブ資産の年金積立金全体に占める割合は 0.05% (基本ポートフォリオでは上限 5%) です。

(注4) 管理積立金 (厚生年金保険法第 79 条の 6 第 1 項に規定する管理積立金をいう。以下「厚生年金分」という。) に係る運用資産別の構成割合は、上記の年金積立金全体に係る構成割合と同じ比率です。

平成 28 年度第 2 四半期運用状況

	平成 27 年度					平成 28 年度				
	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	年度	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	年度
収益率 (%)	1.92	-5.59	3.56	-3.52	-3.81	-3.88	1.84			-2.12
収益額 (億円)	26,489	-78,899	47,302	-47,990	-53,098	-52,342	23,746			-28,596
利子・配当収入 (億円)	8,039	5,510	6,661	5,214	25,424	8,342	5,102			13,444
運用資産額 (億円)	1,411,209	1,351,087	1,398,249	1,347,475	1,347,475	1,297,012	1,320,751			1,320,751
			(1,308,478)	(1,261,420)	(1,261,420)	(1,216,375)	(1,238,686)			(1,238,686)

《参考》

(市場運用分)

	平成 27 年度	平成 28 年度	
		第 1 四半期	第 2 四半期
修正総合収益率 (%)	-3.98	-3.99	1.87
時間加重収益率	-3.88	-4.00	1.86
総合収益額 (億円)	-53,846	-52,491	23,620
	(-50,407)	(-49,227)	(22,152)
運用資産額 (億円)	1,313,053	1,267,540	1,296,204
	(1,229,196)	(1,188,735)	(1,215,664)

(財投債)

	平成 27 年度	平成 28 年度	
		第 1 四半期	第 2 四半期
収益率 (%)	1.75	0.44	0.44
収益額 (億円)	748	149	126
	(700)	(140)	(118)
運用資産額 (億円)	34,422	29,472	24,547
	(32,224)	(27,640)	(23,022)

(注 1) 市場運用分は時価による評価、財投債は償却原価法による評価に未収収益を含めたものにより算出しています。

(注 2) 収益率及び収益額は、運用手数料等控除前のものです。また、各期間の収益率は期間率、平成 27 年度は年率です。

(注 3) カッコ内は厚生年金分の値です。寄託金の元本に応じて按分しています。なお、収益率は按分後も同じ値なので特記していません。

収益率の状況

《運用資産全体》

	平成27年度	平成28年度				年度
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	
収益率 (%)	-3.81	-3.88	1.84			-2.12

《参考》

(市場運用分)

	平成27年度	平成28年度				年度
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	
修正総合収益率 (%)	-3.98	-3.99	1.87			-2.19

	平成27年度	平成28年度				年度
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	
時間加重収益率 (%)	-3.88	-4.00	1.86			-2.21
国内債券	4.07	1.91	-1.34			0.54
国内株式	-10.80	-7.38	7.14			-0.76
外国債券	-3.32	-8.02	-0.22			-8.22
外国株式	-9.63	-7.76	3.65			-4.39

(財投債)

	平成27年度	平成28年度				年度
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	
収益率 (%)	1.75	0.44	0.44			0.88

(注1) 収益率は、運用手数料等控除前のものです。また、平成28年度の各期間及び年度は期間率、平成27年度は年率です。

(注2) 厚生年金分の収益率は、按分後も同じ値なので特記していません。

収益額の状況

	平成27年度	平成28年度				年度
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	
収益額（億円）	-53,098	-52,342 (-49,088)	23,746 (22,271)			-28,596 (-26,819)

《参考》

（市場運用分）

	平成27年度	平成28年度				年度
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	
総合収益額（億円）	-53,846	-52,491 (-49,227)	23,620 (22,152)			-28,871 (-27,077)
国内債券	20,094	9,383 (8,800)	-6,671 (-6,257)			2,712 (2,543)
国内株式	-34,895	-22,574 (-21,171)	20,234 (18,977)			-2,340 (-2,195)
外国債券	-6,600	-15,193 (-14,248)	-398 (-374)			-15,591 (-14,622)
外国株式	-32,451	-24,107 (-22,608)	10,455 (9,806)			-13,651 (-12,803)
短期資産	7	0 (0)	0 (0)			0 (0)

（財投債）

	平成27年度	平成28年度				年度
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	
収益額（億円）	748	149 (140)	126 (118)			275 (258)

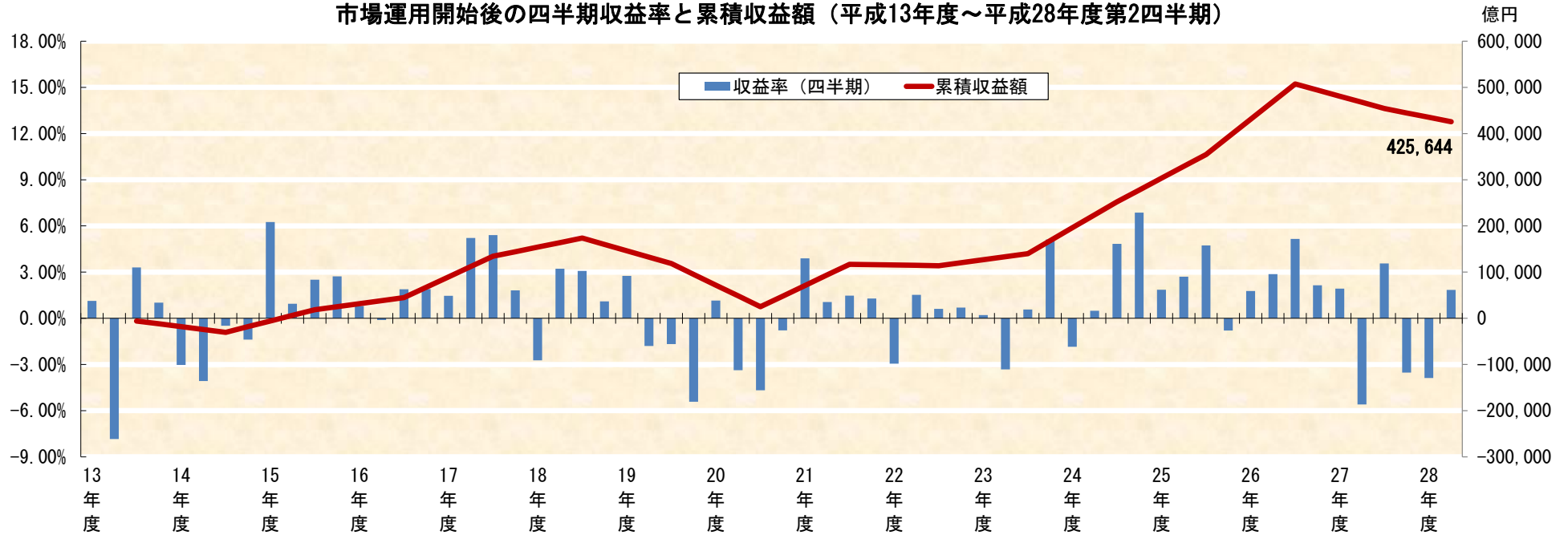
（注1）上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

（注2）収益額は、運用手数料等控除前のものです。

（注3）カッコ内は厚生年金分の値です。寄託金の元本に応じて按分しています。

運用実績推移

市場運用開始後の四半期収益率と累積収益額（平成13年度～平成28年度第2四半期）



	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度 4-9月	独法設立後 (18~28年度第2四半期)	市場運用開始後 (13~28年度第2四半期)
収益額 (億円)	-5,874	-24,530	48,916	26,127	89,619	39,445	-55,178	-93,481	91,850	-2,999	26,092	112,222	102,207	152,922	-53,098	-28,596	291,386	425,644
収益率	-1.80%	-5.36%	8.40%	3.39%	9.88%	3.70%	-4.59%	-7.57%	7.91%	-0.25%	2.32%	10.23%	8.64%	12.27%	-3.81%	-2.12%	2.34%	2.47%

(注1) 収益額及び収益率は、運用手数料等控除前です。

(注2) 四捨五入のため、各数値の合算は合計と必ずしも一致しません。

資金運用に関する専門用語の解説

○ 時間加重収益率

時間加重収益率は、時価に基づく運用収益に基づき、運用機関が自ら決めることができない運用元本の流出入の影響を排除して求めた収益率であり、その運用実績とベンチマーク収益率（市場平均収益率）との比較により、運用能力を評価することが可能となります。

管理運用法人では、時間加重収益率の市場平均対比での超過収益率を測定し、運用行動の自己評価と、運用受託機関の定量評価に使用しています。

（計算式）

時間加重収益率は、次の式により日次の収益率から月次の収益率を算出し、n期間の収益率を算出したものです。

- ①日次の収益率 = $\left\{ \frac{\text{当日時価総額}}{\text{前日時価総額} + (\text{当日の資金追加額} - \text{当日の資金回収額})} \right\} - 1$
- ②月次の収益率 = $(1 + r_1)(1 + r_2) \cdots (1 + r_n) - 1$ r = 日次収益率
- ③n期間の収益率 = $(1 + R_1)(1 + R_2) \cdots (1 + R_n) - 1$ R = 月次収益率

○ 修正総合収益率

運用成果を測定する尺度の1つです。

総合収益率では、収益に時価の概念を導入していますが、これに加え、投下元本に時価の概念を導入して算定した収益率です。算出が比較的容易なことから、運用の効率性を表す時価ベースの資産価値の変化を把握する指標として用いられます。

（計算式）

$$\begin{aligned} \text{修正総合収益率} = & \left\{ \begin{array}{l} \text{売買損益} + \text{利息} \cdot \text{配当金収入} + \text{未収収益増減} \quad (\text{当期末未収収益} - \text{前期末未収収益}) \\ + \text{評価損益増減} \quad (\text{当期末評価損益} - \text{前期末評価損益}) \end{array} \right\} / (\text{投下元本平均残高}) \end{aligned}$$

※ ⇒ 「投下元本平均残高」参照

○ 償却原価法

債券を額面金額よりも低い金額又は高い金額で取得した場合、差額が発生しますが、これらの差額を償還期までに毎期、一定の方法で収益又は費用に加減する評価方法です。

○ 総合収益額

総合収益額は、実現収益額に加え資産の時価評価による評価損益を加味することにより、時価に基づく収益把握を行ったものです。

（計算式）

$$\begin{aligned} \text{総合収益額} = & \text{売買損益} + \text{利息} \cdot \text{配当金収入} + \text{未収収益増減} \quad (\text{当期末未収収益} - \text{前期末未収収益}) \\ & + \text{評価損益増減} \quad (\text{当期末評価損益} - \text{前期末評価損益}) \end{aligned}$$

○ デュレーション

債券運用において、利子及び元本を回収できるまでの期間を現在価値で加重平均したもので、将来受け取る予定のキャッシュフロー（満期までのそれぞれの期間においては利子、最終年は利子＋元本）を最終利回りで割引いた現在価値に、実際に受け取ることができるまでの期間（経過年数）を乗じたものを、それぞれの期間において発生する現在価値の合計で割ります。これは債券投資の平均回収期間を表します。また、デュレーションは金利変動に対する債券価格の変化率を表す指標としても用いられます。これは修正デュレーションと呼ばれるもので、デュレーションを（1＋最終利回り）で除して求めることができます。例えば、修正デュレーションが1の場合、金利が1%上昇すると価格は概ね1%下落することとなります。修正デュレーションが大きいということは、金利リスクが大きいことを示します。

なお、MBS、ABSなどについては実効デュレーションを用います。実効デュレーションとは、期限前償還などのオプション性の影響を調整したものです。

例えば、残存期間3年、利子3%（年1回）、最終利回り4%の債券のデュレーションと修正デュレーションは次のように求めることができます。

経過年数	キャッシュフロー	現在価値	デュレーション	修正デュレーション
1年	3円（利子）	2.88円 ($3 \div (1 + 0.04)$)	0.03年 ($2.88 \div 97.22$)	2.91 ÷ ($1 + 0.04$)
2年	3円（利子）	2.77円 ($3 \div (1 + 0.04)^2$)	0.057年 ($2 \times 2.77 \div 97.22$)	
3年	103円（利子＋元本）	91.57円 ($103 \div (1 + 0.04)^3$)	2.83年 ($3 \times 91.57 \div 97.22$)	
合計	109円	97.22円	2.91年	2.80

○ 投下元本平均残高

期初の運用資産時価[※]に期中に発生した資金追加・回収（＝キャッシュフロー）の加重平均を加えたものです。総合収益額を発生させた元手がいくらであったかを表します。

※ 管理運用法人では、市場運用資産については、時価主義、発生主義の会計処理を行います。従って、年度初元本には前年度末評価損益と前年度末未収収益を含み、年度初元本は年度初運用資産時価と一致します。

（計算式）

投下元本平均残高＝期初の運用資産時価＋キャッシュフローの加重平均

キャッシュフローの加重平均＝ $\sum_i (i \text{ 番目のキャッシュフロー} \times i \text{ 番目のキャッシュフロー発生時から期末までの日数} / \text{期中の合計日数})$

○ ベンチマーク

運用成果を評価する際に、相対比較の対象となる基準指標のことをいい、市場の動きを代表する指数を使用しています。管理運用法人で採用している各運用資産のベンチマークは以下のとおりです。

- 国内債券 NOMURA-BPI「除くABS」、NOMURA-BPI国債、NOMURA-BPI/GPIF Customized 及びNOMURA物価連動国債インデックス（フロアあり）の複合インデックス（それぞれの運用金額による構成比で加重平均したもの）
- 国内株式 TOPIX（配当込み）
- 外国債券 シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース、WGBI）
- 外国株式 MSCI KOKUSAI（円ベース、配当込み、管理運用法人の配当課税要因考慮後）、MSCI EMERGING MARKETS（円ベース、配当込み、税引き後）及びMSCI ACWI（除く日本、円ベース、配当込み、管理運用法人の配当課税要因考慮後）の複合インデックス（それぞれの運用金額による構成比で加重平均したもの）

* NOMURA-BPI「除くABS」

野村証券金融市場調査部が作成・発表している国内債券市場のベンチマークです。

平成20年4月から、代表的なベンチマークであるNOMURA-BPI総合の中に新たに資産担保証券（ABS）が組み込まれましたが、NOMURA-BPI「除くABS」は、同ベンチマークからABSを除いたベンチマークです。

* NOMURA-BPI国債

野村証券金融市場調査部が作成・発表している国債のベンチマークです。

* NOMURA-BPI/GPIF Customized

管理運用法人がキャッシュアウト等対応ファンドに移管し、満期まで保有することとした公募利付債について、野村証券金融市場調査部が投資収益率を指数化したベンチマークです。

* NOMURA物価連動国債インデックス（フロアあり）

野村証券金融市場調査部が作成・発表している、日本国が発行した物価連動国債のみを対象とするベンチマークです。

* TOPIX（配当込み）

東京証券取引所が作成・発表している国内株式の代表的なベンチマークです。東証第一部の基準時の時価総額を100として、その後の時価総額を指数化したものです。

-
- * **シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース、WGBI）**
シティグループ・グローバル・マーケット・インクが作成・発表している世界国債のベンチマークです。時価総額につき一定基準を満たす国の国債について、投資収益率を指数化したものであり、国際債券投資の代表的なベンチマークです。
 - * **MSCI KOKUSAI（円ベース、配当込み、管理運用法人の配当課税要因考慮後）**
MSCI Incが作成する日本を除く先進国で構成された株式のベンチマークです。
 - * **MSCI EMERGING MARKETS（円ベース、配当込み、税引き後）**
MSCI Incが作成する新興国で構成された株式のベンチマークです。
 - * **MSCI ACWI（除く日本、円ベース、配当込み、管理運用法人の配当課税要因考慮後）**
MSCI Incが作成する日本を除く先進国及び新興国で構成された株式のベンチマークです。

○ **ベンチマーク収益率**

ベンチマークの騰落率。いわゆる市場平均収益率のことです。

運用収益率の絶対値の高低による評価は、投資環境の違いを反映せず、運用期間が異なる場合に横並びの比較が不可能です。しかし、投資環境を反映する基準指標の騰落率に対してどの程度収益率が上回ったか（超過収益率）を算出することにより、運用期間の異なるものの横並び比較が可能となります。

ただし、ベンチマーク収益率は、市場平均収益率を示す理論値であるため、取引に係る売買手数料等の取引コストは考慮されていません。